





井蛙抄第二



取本一奇事



八雲抄抄一のあまき第一乃大事一よひてふかゆふま
 なりちりあれと又いとよひてふかゆふぬ人も物もあふこと
 りもあまの上は中もあまの事とえとらぬもあり
 此二振あり一の海とあて心成一人一も心あつとさりて
 物成一人一人もあまの海とあて風情をわくまらるるなり
 風情とされぬ事いむかん若らとさりて物成一人一人
 事も今も古今平に月あつとさりて一人一人

井蛙抄

告^つや^まら^んそ^のま^はぬ^れと^よめる^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
梅^咲ら^んと^いは^れる^まは^らぬ^れと^よめる^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
り^もの^まは^らぬ^れと^よめる^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
て^いは^れる^まは^らぬ^れと^よめる^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
平^なら^んの^まは^らぬ^れと^よめる^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
も^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の

ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の
ま^はら^ぬれ^とよ^める^る百^葉乃^平な^らん^の痛^の

井

我とめつ〜
やまを海で東代乃入サシの舟に海をよかんはく
さのこあ〜
し〜とあふ平に海門の人よか〜りきまらわ
もなき事ばよひのあらたあ〜む〜てたろ海
し〜百葉集の初少終あ〜りき〜てま〜
〜はあ〜り〜ありとねらひの世さ
〜ちああ〜む〜とするかめま二る中〜はり？
せん之向ゆる事むさ〜り〜次凡とて古行志海

い〜と〜とは先達せんだちらんも歌本〜あり
被進えんせ権井宮抄くわいのみやまは古事ととりてあ〜
と海本うみのほん〜る中〜は二句〜な〜り〜す〜
文〜
とね〜と〜あ〜二句〜入〜三字句字毛とゆる
とね念ねんち〜花と〜て月と海〜月と〜花
と海と〜事乃平と〜て魚いさな難乃平と海〜
難の平と〜て事乃平と〜と海と〜り〜
附古事と〜は務つとなり〜

井主

是也乃山郭云

三吾野此より

スルは月のうら

わくまはるや

ありこれらの人

あうの洞まこを幾夜なりとけけけ

年たうらにまはるはわ 月やあゝあまやひ

揺らふまのー風 かのこちうら

くはくくうらうらにありたさうに海へ

私云中平とさきうらうら海へ連一乃揺る

まの海とうらうら下はなれくわあゆとよあ

ふらり川まは日敷いあういそて花ゆそちつじきの理本

名取河せつは押本あうられしうにまんとうをんそめえ

あはさりは中野乃渡第は玉家あもあまはあまら 結乃々書

あむははるころみひのまうとてはのせりせれうら

あそ私思のん中かゝるれがめそとては後のことあふ

ま乃のあひれうやあひのうらうらとあふとあふ

様よきそあふらうら山平乃あまのそわあふ

木もはらうらと海風吹く入まともあふしうのあふ白

浦の北風は月影をひらきて海をまじりて野をふりかへ
年々今も海は一里はあつたかと思ふに海も昔より深
一乃海の中秋の心よとてつりて月情と建立し
まゝ秋平な中よと賜書したる海ありて思ふ
りなるも秋の心よとてつりて月情と建立し

浦の北風は月影をひらきて海をまじりて野をふりかへ
年々今も海は一里はあつたかと思ふに海も昔より深
一乃海の中秋の心よとてつりて月情と建立し
まゝ秋平な中よと賜書したる海ありて思ふ
りなるも秋の心よとてつりて月情と建立し

卯花のまらぬに花のついでに秋の月の影をまじりて
夜はあつたかと思ふに海も昔より深
一乃海の中秋の心よとてつりて月情と建立し
まゝ秋平な中よと賜書したる海ありて思ふ
りなるも秋の心よとてつりて月情と建立し

夕暮れより紅き山とみみんよりの類とわらわもさく
まゝなりもたまりしころもたれ物と志めてもあめ業の草
ぬまうそとあてわつる年計ゆも春のころとあしと
うたまりの宿もつらつらりやはたのまもあはれそ
出雲の物よしのちかきそあねのうたまりの宿もあ
おのゆの難波乃まは明りのころもあはれそあはれ
いあふよみあはれはのまもあはれそあはれそあはれ
人らつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
まはれつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつ

一乃屋のむすびは心も成りてとてとてとてとてとて
しん後もしてあはれつらつらつらつらつらつらつらつ
愚草中にはあはれつらつらつらつらつらつらつらつ
大空の梅乃白ひよとみつらつらつらつらつらつらつ
照をさつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
駒とめて袖つらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
そゆの尾上乃とみつらつらつらつらつらつらつらつらつ
枯木乃うちあはれつらつらつらつらつらつらつらつらつ

井蛙か

きつち一風は吹きて秋の母にしろきかしのさきさき
うきうきとあそびてはるかにうきうきとあそびてはるかに
あててこそあそびてはるかにうきうきとあそびてはるかに
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと

本歌二首ばかりてよめる

千五百番平合

定家

いそごのあまのさかきもあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと

信実の長

あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと
あそびてはるかにうきうきとあそびてはるかにうきうきと

一巻古名あそび

世中

辨別
新編

廣田社平合

季子

あきまふれははちとゆきあはらふか
五条判^{しん}云たすすこい宣^{のり}くこそゆると下むわの
のかたれくまそふりかうなまといく^{めい}ちあはれ
くゆるとけいといまといゆる^あもんまとい
二句とるもはひのゆなれとあくららるとさく
あも繁^はげくあふくくさるなり

わさく
私云^{わさく}惠慶能因^{まはりのり}とそり梅^{うめ}らることをいふ
ゆるりやうれ事一人はまといかふまはあなり

ての人^{ひと}の別^{わか}乃事^{こと}とそとの世^よれ人^{ひと}かな成^{なり}んか
あへーとこやゆるん

千載^{せんざい}
梅^{うめ}らる氷^{こおり}乃^{なり}旬^{じゆん}いそはむむる花^{はな}乃^{なり}さくこかひりさる
梅^{うめ}らる^梅表^{あは}れ山^{やま}辺^へいこわきわ世^よとのれ^れとあ^ありい^いあ^あ

一本歌詞ある事

鴨^鴨長の抄^の云^いはれは合^あり^り曉^{あき}康^{やす}と讀^より^り

今^{いま}あんとまはあ契^あり^り長^{なが}月^{つき}乃^{なり}あめ^めの月^{つき}はな^なり^り梅^{うめ}ら
けすあはら^らか^から^ら梅^{うめ}ら^らと^と勝^かつ^つは^は梅^{うめ}ら^らと^と
船^{ふね}は^はあ^あら^らと^と離^{はな}れ^れと^とあ^あら^らと^と可^から^らい^いる^る

井野抄
三十一

二句一そのたふして傳まらうよあわく思ふる事
その句は並りへく上乃句と下よなな一もいはり
あうたれそはさう一けきこれたれもと乃益
あててひの乃句とひといふとらうらるる事
雜とすへ一とれん傳り

系後被^{さうつ}果^あ栗^い田^い口^く大^{だい}綱^{こう}言^{げん}其^{その}良^ら江^え浦^う息^{そく}云^い近^{この}來^{ちか}流^{なが}
人^あ上^の乃^の名^な名^な云^い之^の單^{たん}偏^{へん}好^{こう}詠^{えい}一^の招^{まね}
元^{げん}父^ふ不^ふ洋^{やう}一^の事^{こと}

三代集已下古下之三句は及後て用自奇

事^{こと}同^{どう}題^{だい}同^{どう}心^{しん}結^{けつ}禁^{きん}制^{せい}一^の

葛葉集古歌長歌旋頭あ之河原其類一
之^の中^{ちゆう}ヤ^やい^いと^と毎^{まい}人^{にん}強^{かう}詠^{えい}之^のか^かく^く覺^{かく}悟^ご事^{こと}

七巻隆

泊瀬山^{とくせ}の乃乃ん^{ののん}とや振むまうりゆ^{のゆ}巻乃^{まき}と^とま^ま
ま^ま能^{のう}た^たか^かひ^ひく^く山^の乃^の様^{のよう}の^のか^かう^うの^の乃^のん^んと^とや^やさ^さの^の乃^の乃^の乃^の

龍永心

三句に新おとす山里もあより思ふ乃々やわら

め此類傳

中務の親王に言ふ

高羽山に於て相取の筈にあらざるはあやむき事
 氏中毎句に花藤返りつゝしうあるは海軍
 音羽山に於てつゝあはれ乃園のあらざるは幸とぬ
 杉云いふこと中已及三句は稱再大河之
 不審
 九条前内府被付河云平手似るゆん古言句之
 左下及三句は河下者先達申念之申作心
 六百番平合

右

甲子らそこといふは訓書め花の音とせぬと
 右ともし小字解之ゆや
 判云左の志性法師乃甲子とらまは山さ
 うちまはれしうこと志ぬ藤の
 右平ととりすくはるもやゆんあまはら
 心とすは花の音とれるのまわりう入
 ありしすは持めしやゆん

一葉中
 藤衣
 藤衣
 藤衣

千五百番番合

右勝

右大后

誰とよまのりある一はたや葛の志くくもさねなる

右

雅理

山嵐乃ぬめくはくはるる暇にせれたまあるふるを瀬の直浪

右の妙の百葉乃山のくついでいふらあまあまといへ

あまのいふととりてたれまのくよそらそあま

あまのいふあまのいふく教かんしゆるくたま

人の心乃んこさするられといふあまの思つるあ

一のくは海はあくとゆるきと程申吉の千の

美葉れあまをいひくかろく一仍れあまの雅

日秋合

右

有家朝臣

朝日けありあ山はくははまらく清めあかきそみ

右

定家朝臣

極むるのくし書風あまのてあまのあわめら後葉生葉

右朝日けとよまのいふあまのあまのあまの

心風情あまのあまのくゆるく一たつらあま

と并くもをれく入きよけあふるるもやせ
事なる小川まて右橋とやゆん
六百番哥合

右橋 定家朝臣

かたれらつらつ道の整ふああよびく物と思ひ
判云右命よびくや百集集るく小橋のめ
と結平の産敷す

愚管抄云 保兼法眼 万葉集より事

宝治百首より 正三位知家

あはれしるまはたなるいふもはきりのまのまはれぬ
今夜もよのまの枯ゆはたむら志き物ゆん
是あふ番たのよーたひくは百集乃をたか
くよあはれあさり此より此すそのはあはれ
くShunwa

先後朝臣

海なるはあけり風よそよあゆりつるあ葉今も
いふ神もなほくはのあきよあは葉のちもくは
子葉被社のあつた毎とめて大崎三れん月とあはれ

井屋抄

新勅撰 石清水 隱岐家 禁中
海東通安

新勅撰 石清水 隱岐家 禁中

らりもせし衣よすれくき竹の大まへ乃り子にさるる

はく平の大まへ乃りぬんを伴保れぬと行りて之を君

海色引綱 後二位 藤原

波風之のうらゆる世其喜ひわきて細乃留人へぬりて宛

細能浦之海慶女あそく焼塩乃念電焼吾下精

あまきくよか平ととれか心河を治り後かまの

のそ代もあへか風神なへく是とるあま

已上法眼抄

古来風神云万葉集乃平心よく必哉えんくとりて

之下のひへき事とそぬるまへ人へをさしたるあり

一物語奇取中歌事

後その相院抄云あ合れ奇とけはしつて思ふ中り

よまの原とそ釋阿摩蓮あそかやの別の極

てつり題乃心とくおしとくへく痛るくまの源氏

物語乃平心とけはしつて思ふ中り

とそきしとそ物語方れ心とそ首首乃あるあま

法眼抄

とらぬのりあきとて近代名そのさうとかな

六百番二合 蟬 女房勝

鳴せと成ふよとく落し林うけて木陰涼き夕暮のま
判云左方明小をく落し林うけてまことつらと
く河井よ夢んよわうくもゆるかむむ勝

同平合 祐野

女房

又し林も何よのこさん草井原ひらよらる那方草井
たし云草井たしうきうはう次

判云左方あう乃こさん草井たしうとくいふ艶

しそゆるあれたち方人草井原と難中^{あんな}く糸原^{いと}
た^ひある^まよ^は武部^ぶい^はよ^はむ^はや^はう^はわ^はの
く筆^えい^はふ^はふ^は結^{むす}く上^う花^はた^はえ^えん^ん春^はい^はふ^はに^に教^{えん}
か^かる^る物^{もの}あり^{あり}源^{げん}氏^しん^んと^とう^うあ^あよ^よこ^こい^い遠^{えん}恨^{げん}毒^{どく}一^{いつ}也^や
千五百番 哥合

た

後成の女

かあきよは花乃花いふ花の月をえあははとああ花
う^うあ^あ花^は乃^のあ^あ花^は乃^の花^はえ^える^るす^すま^まん^んは^はは^はん
と^との^の女^めの^の言^{こと}は^はあ^あう^うと^とえ^えん^んは^はは^はん^ん

井田

元

つりよのねおの侍る人

琴の音と月とさるるもあはれしつらむねのこころを

正治百首

たかたか

しづかきる珠のほろりさるるみよのふたはらう
思ふまじしおつらうりさるるもあはれしつらむねのこころを

佐致

正治百首

